

登米ひまわり訪問看護ステーション

症 例 概 要 利用者:80代 男性 要介護5

病名:前立腺癌

利用期間:令和3年4月～現在に至る

経過:2018年11月T病院にて前立腺癌診断受け、精査目的にてO病院紹介受診、検査受けるが通院中断。2020年秋より食欲低下、腰痛、呼吸困難にてT病院受診、前立腺癌による骨転移、右胸水貯留あり緩和的対症療法を行うが、7月に入り腰痛増強、疼痛コントロール目的にて入院。予後が2週間位と宣告され自宅退院希望あり訪問看護開始となる。7月胸苦感、呼吸困難感あり発作性心房細動による慢性心不全急性増悪の診断にてHOT導入。内服薬追加、1週間程で症状緩和し8月にHOT中止、酸素化良好となっています。

内 容

2021年4月から介入。介入当初は内縁の妻に迷惑をかけたくないという思いから訪問看護の受け入れも難航しました。入院時体重58キロ代。食欲低下あり、体動時痛み酷かった為に、ギヤッチUPにてケア実施。徐々に痛み軽減され、起居動作や端座位可能となり、ADL拡大出来るようになってます。入院中は点滴実施、食欲低下見られていたが、退院後は内縁の妻と友人の支えがあり、食事摂取量増加が見られています。ステロイド内服の影響もあり、食欲旺盛となり1日5～7食摂取まで回復。

以前は、画家の仕事をされており、画家だった頃を思い出して、もう一度絵を描いて欲しいと介入時にご本人に声をかけ続けました。7月下旬頃から、ご本人の創作意欲が見られるようになり、Drからリハビリを勧められ8月初旬からリハビリ介入となっています。手の振戦があり、最初は上手く描けないと、手を支えながら絵を描いておりましたが、その後は手の振戦も落ち着き、手の支え無しで絵を描ける様になっています。リハビリ以外の時間にも一生懸命、自主トレを実施されております。

訪問開始から半年が経過していますが、体重も10kg増加、状態安定され訪問を継続する事が出来ています。リハビリも継続し、介助は必要ですが歩行可能となっています。今では週2回の訪問看護、週2回のリハビリも楽しみに待っていてくれるようになりました。最近では「絵を描きたい、外に出て歩いてみたい、トイレで排泄出来るようになりたい。」など目標を持つようになっていきます。「こんなに良くなって、俺は死ぬ気がしないんだよ、頑張ってる生きなくちゃな。」など前向きな発言が多く聞かれるようになりました。

夫婦漫才の様な掛け合いをしながら笑顔も沢山見られ、心身ともに豊かな時間を過ごせるようになって

ています。今後も、更に余生を楽しく過ごせるように、多職種と連携しながらご本人の目標を達成出来る様サポートしてゆきます。